

青山学院初等部



キリスト教信仰にもとづき
「かけがえのないひとり」である子どもたちを
大切にする教育を実践

本校のすべての教育の根底に流れているのがキリスト教教育、すなわち「神さまから与えられた賜物を活かす教育」なのです。「教育」とは、その文字の通り「教え育てる」ことです。ただ教えるのではなく、子どもたちが自ら学び、体得し、成長していく、そうした「人間力」を培う教育を作り上げていこうと、全校を挙げて取り組んでいます。

子どもの一日は、礼拝を守ることから始まります。キリスト教精神を体で享受してもらうために、毎朝の礼拝や宗教の授業、各種行事を通じて神さまからの恵みに感謝します。

先駆的な 改革への取り組み

本校では50年以上も前から先駆的な改革に取り組んできました。1965年にランドセルを廃止し、1972年には週5日制を導入しています。この根底には「今のままで本当にいいのか」と絶えず問題意識を持って教育と向き合ってきたことがあります。

教育は、学校と家庭が車の両輪のように連携しなければ、子どもたちはまっすぐ育ってくれません。家庭には家庭の教育があり、学校では教えられない大切なこともたくさんあります。本校がいち早く5日制を採り入れたのも、家庭に時間を返そうという発想なのです。

学校と家庭の連絡はしっかりと行います。また、学校の様子を知っていただく、保護者の方には、いつでも授業参観に来てくださいとアナウンスしています。また、評価は通信簿の代わりに『成長の記録』を採用し、日常評価を大切にしながら、個に合った指導を行っています。

この『成長の記録』は、児童がまず自分でその学期の成長を評価し、その次にどういう目標を立て、どうしていけばよいのかを子ども自身に書き込んでもらうという、PDCAサイクルを用いて、それを保護者と教師が一緒に見ながら子どもと話し合い、その先のことを考えていきます。

目標は各自5つくらい書きます。子どもたちは次に自分が何をしなければならないのかをきちんと理解していて、これには本当に驚かされます。

それだけではありません。『成長の記録』では、その目標を書く前に、まず「自分ができたこと」を10個以上書いてもらいます。その学期内に自分はこれだけ頑張った、これだけのことが達成できた、と自己肯定感を高めると同時に、反省するところはきちんと反省する。それは子どもたちの自我の発達にとってもプラスになりますし、「問題解決能力」を養う上でも大切な勉強となっています。



初等部 部長
中村 貞雄



ラグビー部「コアラーズ」



雪の学校



洋上小学校

個を活かす教育と 活発な自発的活動

クラス担任による国語・算数・社会・生活の各教科では、児童の個性・適性に配慮し、学級を少人数のグループに分けた教育も行っています。

理科・音楽・図工・体育・英語などの専門教科は、戦後間もない時期から、その教科に卓越した専科教員が担当しています。本校が創立当時から行っている英語教育は、青山学院独自の英語教科書『SEED BOOK』を使用して、高等部までの一貫教育を実践しています。希望者には夏休み中のオーストラリア・ホームステイやイングランド・サマープログラム、春休みのフィリピン訪問など、国際交流の機会もあります。また、3年生以上の各教科ではタブレットPCを文房具の一つとして活用し、さらに企業とタイアップしたプログラミング教育も実施しています。

校舎は、1年生から4年生までを低・中学年棟、5・6年生を高学年棟に分け、近い学年同士の行き来がしやすいよう配慮しています。一方本校では1年生と6年生、1年生と2年生がペアを組み、上

級生が下級生の面倒を見るパートナー制度の取り組みなども行っていますので、ウッドデッキを利用して、両学年がお互いの教室に出入りしやすいような工夫も凝らしています。

本校では教科学習にとどまらない自発的な活動も盛んです。5・6年生全員が参加する「総合活動」では、宗教、保健、環境、給食、放送、新聞、運動など15のプロジェクトに分かれ、「初等部のみんなのために働く時間」「SDGsに取り組む時間」として活動しています。また、11のクラブ活動があります。日本で一番古い小学校ラグビーチーム「コアラーズ」、さらに聖歌隊やハンドベルクワイアなど礼拝で奉仕をするクラブもあり、3年生以上の登録率は95%を超えています。

体験から得た感動が 子どもたちを成長させる

本校の教育の大きな特徴の一つといえるのが、6年間で50泊以上の宿泊行事です。1年生の「なかよしキャンプ」に始まり、2年生の「農漁村の生活」や3・4年生の「山の生活」、5年生の「平戸 海の生活」、3年生から6年生までが全員参加する学年縦割り生活の「雪の学校」など、自然の中での集団生

活によって、思いやりと信頼の心、生きる力と行動力を養います。

そして、6年間の集大成とも言える「洋上小学校」は、1972年に始まりました。6年生が全員参加し8泊9日の航程で「小さな乗組員」として航海体験する伝統の行事です。船内活動や寄港地などでの活動を通して自然と人との関わり大切さを学ぶことが目的です。様々な経験を乗り越えた時には、何にも代え難い感動と達成感を味わうことができます。

こうした行事のすべてに共通して言えるのが、「学校だけが学びの場ではなく、子どもたちがいるところが『学校』であり、そこで子どもたちと関わるすべての人が先生なのだ」という考えです。

青山学院初等部という環境の中で培われた小さな「人間力」は、青山学院スクール・モットーである「地の塩、世の光」となるべく、青山学院の中等部、高等部、大学、大学院へとつながる一貫教育の中で大きく成長していきます。「人間力」とそこから形成される人的ネットワークは素晴らしく、すべての人と社会のために仕える「サーバント・リーダー」になるためのかけがえのない礎になってくれるものと確信しています。